

デジタルグリーンシティ ～前橋市の取組～

＜官民共創のまちづくり＞

＜デジタル基盤整備＞

＜デジタルグリーンシティ＞

前橋市 スマートシティ推進監
2022年10月27日@JIPDEC

● **日本が衰退している→本気のDXが必要**

<2100年日本は人口半減、世界は40億人増える>

→デジタルによる**変革（DX）が必要**

<最先端技術による人や街の暮らしが良くなる**変革**>

● **国の取組と前橋市の対応**

デジタル田園都市国家構想→Type 3 採択

夏のDigi田甲子園→めぶくEYE（アイデア部門優勝）

● **デジタルグリーンシティ（前橋市の取組）**

めぶくID（統合ID）等によるDX推進基盤整備により

コンセプト：デジタル×スローシティ（違いが豊かさ）

1 （本人同意に基づくオプトインによる）個別最適化したサービス

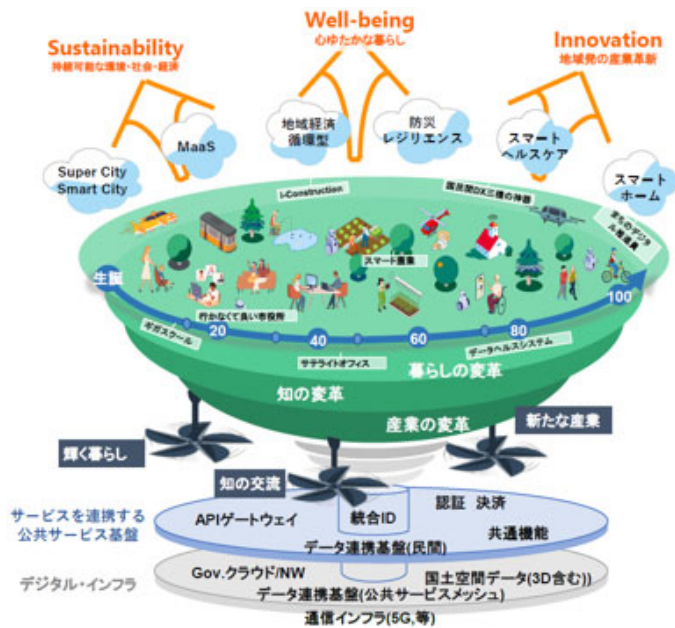
2 安全・安心・快適が大前提

3 官民一体でみんなで推進

日本のデジタル化（DX） デジタル田園都市国家構想推進交付金の概要

「デジタル田園都市国家構想」はデジタルの力で、「暮らし」「産業」「社会」を変革し、地域を全国や世界と有機的につなげていく取組

「デジタル田園都市国家構想」のイメージ



「デジタル田園都市国家構想推進交付金」の概要

TYP E3	データ連携 基盤を 活用した、 複数サービスの 実装を 伴う取組	早期に サービスの 一部を開始	国費上限：6億円 補助率2/3
TYPE 2	優れたモデル・サービスを 活用した実装の取組 (相互運用性を考慮)		国費上限：2億円 補助率1/2
TYPE 1			国費上限：1億円 補助率1/2

※申請上限数：都道府県 9事業 市町村 5事業

- デジタルの力で、「暮らし」「産業」「社会」を変革し、地域を全国や世界と有機的につなげていく取組。
- 国が整備するデジタル基盤の上に、共助の力を引き出し、各地域で全体最適を目指したエコシステムを構築する。
- 常時発展・改革していくためにも、知の中核として大学を巻き込み、関係者全員でEBPMを実践することが必要。

デジタル化を活用した地域の課題解決や魅力向上に向けて、

- データ連携基盤を活用し、複数のサービス実装を伴う取組（TYPE 2・3）
- 他の地域等で既に確立されている優良モデル・サービスを活用した実装の取組（TYPE1）

を行う地方公共団体に対し、その事業の立ち上げに必要なハード／ソフト経費を支援。

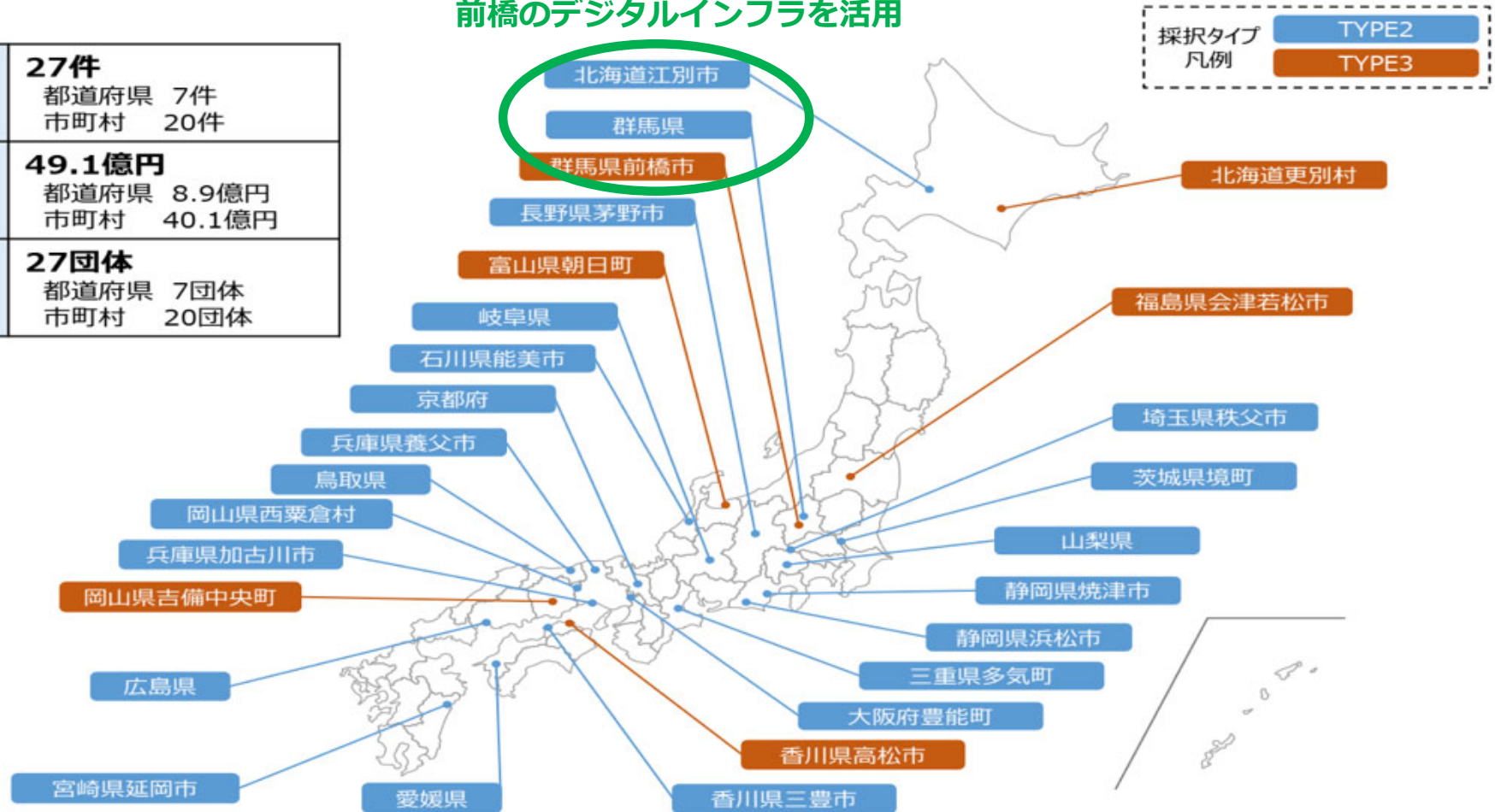
デジタル実装タイプ（TYPE2/3）の採択結果 <サマリ>

- デジタル実装タイプ（TYPE2/3）はデータ連携基盤を活用し、複数のサービス実装を伴う取組を行う地方公共団体の取組を支援
- 採択事業件数（団体数）は27件（団体）、採択金額（国費）は約49億円

<採択結果>

採択事業件数	27件 都道府県 7件 市町村 20件
採択金額 (国費)	49.1億円 都道府県 8.9億円 市町村 40.1億円
採択団体数	27団体 都道府県 7団体 市町村 20団体

前橋のデジタルインフラを活用



(6月17日) デジタル田園都市国家構想推進交付金TYPE3採択

* TYPE3全国 6 自治体 (前橋市、福島県会津若松市、北海道更別村、富山県朝日町、岡山県吉備中央町、香川県高松市)

* TYPE2全国 2 1 自治体 (群馬県・前橋市、北海道江別市、長野県茅野市、静岡県浜松市、京都府、広島県、愛媛県 他)

* 前橋市、群馬県、江別市は、めぶくID (まえばしID) 及びまえばし都市OS活用

* 前橋市 事業費 7.4 億円 (満額採択)

夏のDigi田甲子園 アイデア部門優勝（めぶくEYE）実装部門準優勝（マイタク）



官民共創会社 めぶくグラウンド設立

(2022年9月30日記者発表 10月6日設立)

<参考：2月24日第4回デジタル田園都市国家構想実現会議>

前橋市の取組～デジタル基盤整備～

- ① デジタル基盤の統合ID（めぶくID）**
- ② <官民連携会社>めぶくグラウンド**
- ③ デジタル&ファイナンス未来型政策協議会
による自治体連携（自治体横展開）**

官民共創のまちづくり

2016年：「太陽の会」発足



民間主導による前橋ビジョンの制定
(2016年)

「風の会」の発足
(2016年)

2016年

2017年

「太陽の鐘」の設置
(2018年)

2018年

2019年：「アーバンデザイン」作成



2019年：「前橋デザインコミッション」設立



前橋イベント開催
(2019年)

2019年

「前橋まちなかまちづくりファンド」設立
(2021年)

2020年

白井屋ホテルの開業
(2020年)

2020年：「先進的まちづくり大賞」受賞



これまでの歩みとこれから

官民共創まちづくり

平成28年
民間主導による
前橋ビジョンの制定



令和元年度・2年度
4府省関連事業に
計5事業採択



2016年、市民と共に創った前橋ビジョン、「めぶく。」
ここから、全て始まった。



DXの検討加速

令和2年10月
スーパーシティ準備
検討会設置

DX推進3原則
を策定

令和3年4月
スーパーシティ区域指定申請
(10月に再提出)

令和3年8月
スマートシティ事業4府省合同審査
にて全国最多3事業が選定

- まえばしIDの構築及び地域「講」モデルでの地域金融再興(内閣府 未来技術社会実装)
- MaeMaaS (前橋版MaaS) 社会実装事業(日本版MaaS)
- 官民ビッグデータを活用したEBPM推進事業(スマートシティモデルプロジェクト)

令和4年2月
内閣府「スーパーシティ構想の実現に向けた先端的サービスの開発・構築等に関する実証調査業務」採択

- 「交通テック×脳テック」事業

DXの実装期

令和4年5月
デジタル田園都市国家構想推進交付金 (TYPE3)

令和4年10月
めぶくグラウンド設立・一部サービスリリース

前橋市の未来への方針 (DX推進3原則)

「誰一人取り残されない」
「個別最適化」したサービス

「安全安心が大前提・最優先」

「みんなのアイデアを官民一体で推進」

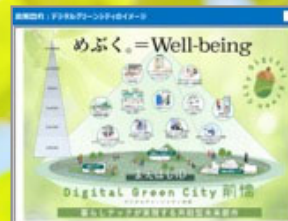
官民共創のまちづくり + DX (デジタルグリーンシティ)

めぶくグラウンド株式会社 設立



Mebuku Ground Inc.

2022 | デジタル田園都市国家構想TYPE-3 採択



2019 | 前橋デザインコミッション 設立



2016 | 太陽の会 発足



2022

●前橋まちなかまちづくりファンド 設立

2022 | 夏のDigi田甲子園 めぶくEYE 優勝



2020

●白井屋ホテル開業

2020 | 先進的まちづくり大賞 受賞



2019

●前橋イベント開催

●太陽の鐘 設置

2019 | アーバンデザイン作成



2018

●民間主導による前橋ビジョン制定

2017

2016

めぶく。

**デジタル（最先端技術）
×
スローシティ（違いは豊かさ）**

で人や街が幸せになる

前橋市の未来への方針(DX推進)

- 「誰一人取り残されない」「個別最適化」
- 「安全安心が大前提・最優先」
- 「みんなのアイデアを官民一体で推進」

テーマ	先端的サービス（各サービスのプラットフォームを含む）	まえばしデジタル自治プラットフォーム・インフラ
-----	----------------------------	-------------------------

前橋めぶくグラウンド構想

スーパーシティ×スローシティが実現する、多様な人が、つながりながら、一生涯、育ち、新たな価値がめぶく街

「技術が人に寄り添う」、「先端的」で「パーソナライズ」されたサービス
 ビジョンを実現するために必要な、「誰一人取り残さない」、「誰一人取り残さない」



まえばしID

「行為自体が不要な社会生活を実現するための真の未来型ID」
 「相手が何者かを確かめる」「自分が何者かを証明する」という

デジタル市民権

真の未来型の民主主義を実現する仕組み
 「いつでもどこでもまちづくりに参加できる」という

グラウンド

真の未来型のまちづくりイノベーション推進会社
 Society 5.0を実現するための

めぶきを生み出す

仕組み

デジタルデバイド対策：
市民のデジタルデバイド対策を実施誰もが安心して先端的サービスを活用できるように

官民一体で中長期的な投資を可能にする新しいファイナンススキーム

めぶきを生み出す

基盤

デジタルインフラ：
「データ連携基盤」と「まえばしmobile(通信網)」

セキュリティ：
個人情報に適切に配慮したプライバシー対策の実施

取組実績：
本申請に先立ち既に実施しているスマートシティ関連の豊富な取組実績

めぶきを生み出す

人

市内の各種団体の関与：
産業界等や医師会等の市内の各種団体の積極的な関与

民間による自発的な活動：
(太陽の会 / GIA・GIS・GPA / MDC / MMA)

スーパーシティへの取組意欲：
スーパーシティ準備検討会 / 159社の事業者公募

「誰一人取り残さない」ための「先端的」で「パーソナライズ」されたまちづくりに必要な「広範かつ大胆な規制改革」
 （「少人数学級・修得主義」、「レベル4自動運転・ライドシェア」、「マイナンバーカードの未来形の先行実現」など）

スローシティ（30か国236都市）

日本では気仙沼市と前橋市だけ：前橋市は日本で推進役割

- ▶ **多様性や寛容性をベース**にゆったりとした暮らしで心身ともに健康的な生活を送る
- ▶ 地域固有の文化・風土と市民のライフスタイルを尊重する新しいまちづくり
- ▶ **違いはチカラ、違いが豊かさ**
- ▶ **今までは「障害者」や「LGBT」等の様々な人もいる**
- ▶ **「障害者」や「LGBT」等の様々な人がいることで食卓同様に社会が豊かになる**

The image shows a Japanese brochure for Cittaslow International. At the top right is the logo 'Cittaslow International' and the text 'スローシティ国際連盟' (Slow Cities International Alliance) with the tagline 'ゆったりとしたより良い食と生活を目標とする都市の国際ネットワーク' (International network of cities aiming for better food and life at a slower pace). Below this is a quote in Japanese: 'わたしたちは、自然や歴史文化などに特徴づけられる食卓を大切に、人々の暮らしの健康、幸福、満足、教育から社会生活などの精神的な豊かさ、住みわたりやすい暮らしの環境をつくることに、意図的に働きかけ、暮らしが暮らしやすくなることを目指します。' (We value food tables characterized by nature, history, and culture, and aim to create a living environment where people can live healthily, happily, and with satisfaction, from daily life to social life, by intentionally working to improve the quality of life and the environment, so that living becomes easier and more enjoyable.)

Next is the heading '幸福な未来のためのスロー' (Slow for a happy future). The text explains that in an era of intense competition, the Slow Cities International Association, in 1999, established the 'Slow City' concept and the first Slow City was established in Italy. It mentions that as of now, there are 236 Slow Cities in 30 countries. The purpose is to create a living environment where people can live healthily, happily, and with satisfaction. The text concludes with the motto: 'The idea of good living where time does more happiness'.

At the bottom, there is a 'Points:' section with a list of goals:

- 標準化ではなく、多様性を促進すること
- 地域独自の文化や伝統を支援すること
- 持続可能な暮らしや環境づくりを推進すること
- 地域の食料や商品や健康的な食品を支援すること
- 住民と一緒に住みよいまちをつくること

There is also a small graphic of the Italian flag and the text 'イタリアから世界へ' (From Italy to the world), and a small illustration of a town with a sun and a house.

デジタル田園都市国家構想推進交付金（TYPE 3） 事業概要（1/5）【まえばし暮らしテック推進事業】

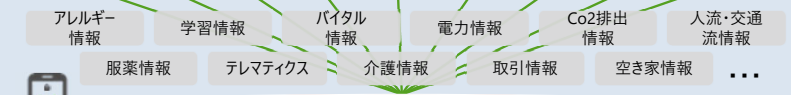
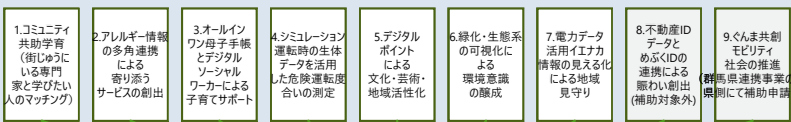
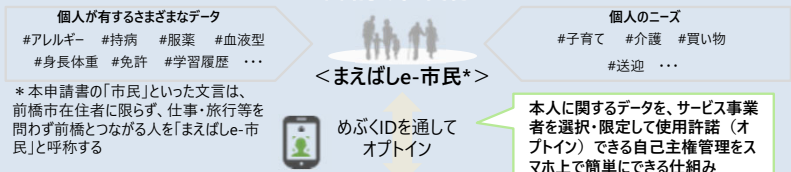
実施地域	群馬県前橋市
実施主体	群馬県前橋市
事業概要	市民によって育まれる共助型未来都市を目指し、一人ひとりがWell-beingでいられる街を実現するため、地方中核都市が抱える「あらゆる分野の課題が存在し、単一分野の領域の高度化では充分ではない」点を考慮し、前橋市では暮らしのあらゆる局面において、データ連携と最先端の技術によりデジタルで社会課題を解決【テック】する「暮らしテック推進」を行い、地方中核都市の先駆けとなるモデルを実装する。今年度では中でも、教育、子育て、健康情報活用、交通、文化・芸術・自然環境に対する行動変容促進等の領域に注力する。本人の同意に基づき、自身に関するデータ（分散して存在）をサービス提供者に使用許諾（オプトイン）することで、サービス提供者が個別最適化（パーソナライズ）したサービスをレコメンド・提供できるようにすることで、一人一人の暮らしがバージョンアップする。サービスだけでなく「ID」「データ連携基盤」を提供する「官民連携会社」も実装する。これらの整備・実装が、地域のリソースやデータをシェアし、共助の精神に基づいた市民中心のまちづくりを加速させる。

取組内容

前橋市のビジョン「めぶく。」= 人がめぶく。会話がめぶく。産業がめぶく。
= Well-beingの達成

人が学び育つ 人の心が豊かに 人がつながる 人の体が軽やかに

共助社会の実現



個人に関するデータを、使用許諾（オプトイン）したサービス事業者へ連携 ※データ非保持

ID発行・データ連携促進

官民連携会社
(めぶくグラウンド)

- デジタル共助ポイントの発行
- まえばしダッシュボード
- サイバリスク評価
- 通隔窓口・インフラシェア

背景
課題

市民によって育まれる共助型未来都市、一人ひとりがWell-Beingでいられる街をめざして、リアル/デジタル両面でのまちづくりを推進中。その中で交通や介護等の生活のベースとなる部分の高度化や、文化芸術をより深めて身近にするような自己実現・自己超越に向けた取り組みも求められ、単一の課題に特化するのではなく、あらゆる生活やニーズへの対応が地方中核都市ならではの課題」として浮かび上がっている。地域全体で「個人情報やデータを連携」することが必要となるが、安全・安心面や利便性の課題から限定的となっている。

狙い

地方中核都市の抱える課題やジレンマへの対応として、
①単一の課題に閉じず生活のあらゆる局面の課題に対応できる環境を整備・実装
②個人の意思によってデータ連携が地域でスムーズに執り行われる環境を整備・実装を行い全国の地方中核都市のモデルとなるような先駆的取り組みを実装し展開する

実施事項

生活のあらゆる局面を支える「まえばし暮らしテック推進事業」の実施			
1.コミュニティ共助学習	多様な学びを求めている人と、自身の経験を社会に還元したい人をつなげ様々な学びの場を創出し、地域での学びを教育機関にも連携するサービス提供	2.アレルギー情報寄り添うサービス創出	アレルギー等の情報を消防や学校に連携しておくことで有事の際に緊急搬送等の隊員が事前に準備することができ安心な暮らしを支えるサービスの提供
3.子育てサポート	デジタル母子健康手帳で管理する乳幼児の健診データと、ソーシャルワーカーの相談履歴等を掛け合わせて、効果的なアクションをPushするサービスの提供	4.データを活用した危険運転度合いの測定	テレマティクスと運転シミュレーションデータを掛け合わせ自身の運転技能の判定や危険道路を可視化することで事故を未然に防ぐサービスの提供
5.デジタルポイントでの活性化	地域で育むべき文化・芸術に対してデジタル共助ポイントで価値を与えることで、持続的な地域活性化を後押しするサービスを提供	6.緑化・生態系可視化	行政や企業の取り組みがどの程度街の緑化に効果を与えたかを地図や建物、Co2情報を掛け合わせることで実現して行動変容を促すサービス提供
7.電力データイナカ見える化	家庭の電力消費データとケアマネ情報を掛け合わせ地域での見守りや声掛けを効果的に行い、フレイル抑制やコミュニティ形成を行うサービス提供	8.不動産データ利活用 (補助対象外)	不動産等のアセットデータと個人情報を掛け合わせることで地域の空き家や公共空間を活用した賑わい活性化を促すサービスの提供
9.くま共創モビリティ	免許返納を行った人でも地域内を不便なく移動できるように人流・交通流・空き車両・ドライバーを合わせてセミオンデマンドの移動サービスを提供 (*群馬県連携事業のため県側に補助申請)		

地域でのデータ連携を可能とする基盤サービス

- 10.デジタル共助ポイントの実装
- 11.パーソナライズ化されたスマホ版まえばしダッシュボード
- 12.対面遠隔デジタル窓口
- 13.データ連携基盤
- 14.めぶくID
- 15-17.その他PMO,リスク評価など

「暮らしテック推進事業の概要」

- * **本人の同意**に基づき、
- * (分散して存在する) **自身に関するデータをサービス提供者に使用許諾 (オプトイン) する**
- * サービス提供者が**個別最適化したサービス**を提供
- * **一人一人の暮らしがバージョンアップ**

事業概要（2/5）【まえばし暮らしテック推進事業】

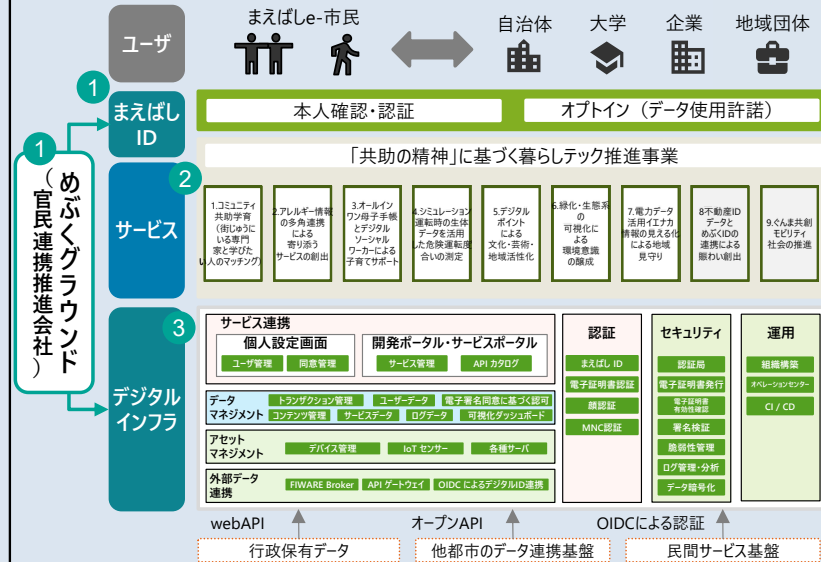
実施体制図



- 本事業は、これまで前橋市が積み上げてきた考えやビジョンに即して推進するため市政への理解や土地勘があり、各分野の専門家であるアーキテクトを配置。アーキテクトはまちづくりの企画立案・実行に主体的にコミットしている。2019年10月から2022年4月末までスマートシティの協議は740回を超えトータル1480時間、アーキテクトとの会議は160回を超え、320時間に及んでいる。
- さらに、今後持続的に地域の事業を推進し、デジタルグリーンシティを実現するために官民連携会社を設立しスピード感とガバナンスを両立して推進していく他、産官学で役割を決め推進する。特に民間事業者はIDを活用したサービスアイデアを募っており、今年度に限らずサービスを断続的に創出する体制を組む。

*2022年10月ごろ正式設立に向け関係者調整中

システム構成図



システム構成上のポイント（前橋の強み）

- 1 本市では、**セキュアな統合IDである「めぶくID」**を構築。デジタル上での安心安全性を担保し、自分ごととしてまちづくりに参画できる環境醸成が、コミュニケーション・共助を促していくという「**デジタル市民自治**」の実現を目指していく。また、めぶくIDを通して取得した**データに基づく政策評価や街の資金循環を促し、まちづくりを推進する官民連携会社「めぶくグラウンド」**を設立する。
- 2 前橋が掲げる一人ひとりのWell-beingを実現するために、人を基軸としたサービスの提供を目指す。従来の分野に閉じる縦割りの考えではなく、**人を基軸として分野横断的にサービスを検討することで、デジタル田園都市国家構想の重視する複数データの連携による付加価値の高いサービスの創出を目指す。**
- 3 本市のデータ連携基盤が最も重視している設計思想が、「**自己主権**」に基づく**データ管理**である。情報を吸い上げるのではなく、利用者が自分の意志でデータを提供する相手方を選択できて初めて、円滑なデータ提供と利用が可能となる。自己主権で決定されたデータ提供だからこそ、**本人同意に基づくデータ分析・個別最適化されたサービスのレコメンド・提供が可能となる。**

めぶく。= Well-being

自己超越欲求

自己実現欲求

承認欲求

社会的欲求

安全の欲求

生理的欲求



まえばしID

Digital Green City 前橋

デジタルグリーンシティ前橋

暮らしテックが実現する共助型未来都市



前橋市の取組 (官民共創のまちづくり)

官民共創のまちづくり

2016年：「太陽の会」発足



民間主導による前橋ビジョンの制定
(2016年)

「風の会」の発足
(2016年)

2016年

2017年

「太陽の鐘」の設置
(2018年)

2018年

2019年：「アーバンデザイン」作成



2019年：「前橋デザインコミッション」設立



前橋イベント開催
(2019年)

2019年

「前橋まちなかまちづくりファンド」設立
(2021年)

2020年

白井屋ホテルの開業
(2020年)

2020年：「先進的まちづくり大賞」受賞



これまでの歩みとこれから

官民共創まちづくり

平成28年
民間主導による
前橋ビジョンの制定



令和元年度・2年度
4府省関連事業に
計5事業採択



2016年、市民と共に創った前橋ビジョン、「めぶく。」
ここから、全て始まった。



DXの検討加速

令和2年10月
スーパーシティ準備
検討会設置

DX推進3原則
を策定

令和3年4月
スーパーシティ区域指定申請
(10月に再提出)

令和3年8月
スマートシティ事業4府省合同審査
にて全国最多3事業が選定

- まえばしIDの構築及び地域「講」モデルでの地域金融再興(内閣府 未来技術社会実装)
- MaeMaaS (前橋版MaaS) 社会実装事業(日本版MaaS)
- 官民ビッグデータを活用したEBPM推進事業(スマートシティモデルプロジェクト)

令和4年2月
内閣府「スーパーシティ構想の実現に向けた先端的サービスの開発・構築等に関する実証調査業務」採択

- 「交通テック×脳テック」事業

DXの実装期

令和4年5月
デジタル田園都市国家構想推進交付金 (TYPE3)

令和4年10月
めぶくグラウンド設立・一部サービスリリース

前橋市の未来への方針 (DX推進3原則)

「誰一人取り残されない」
「個別最適化」したサービス

「安全安心が大前提・最優先」

「みんなのアイデアを官民一体で推進」

めぶく。

Where good things grow.

その芽は、まだ小さい。

風に吹かれ、雨を待ち、太陽の熱さにその身をあずける。

そしていつか、枝をつけ、葉を繁らせ、

強く太い幹となる日を夢見ている。

人は芽だ。この地は芽だ。そしてつながりは芽だ。

いまは幼い芽だけれど、未来の大樹を隠し持つ芽だ。

Where good things grow.

この地ではじまる、芽ぐみ。

ここから、よきものが伸びてゆく。

いくつもの芽が育ち、やがては大きな森をつくっていこう。

Where good things grow.

わたしたちは、この地の芽吹きのために、

未来に希望の森を見るために、

厳しくも優しい風になろう。

慈しみの雨になろう。

そして、なによりも熱い太陽になろう。

Where good things grow.

きっと、芽吹く。

前橋の大地の下にはたくさんの種が、そのときを待っている。

Where good things grow.
その芽は、まだ小さい。
風に吹かれ、雨を待ち、太陽の熱さにその身をあずける。
そしていつか、枝をつけ、葉を繁らせ、
強く太い幹となる日を夢見ている。
人は芽だ。この地は芽だ。そしてつながりは芽だ。
いまは幼い芽だけれど、未来の大樹を隠し持つ芽だ。

Where good things grow.
この地ではじまる、芽ぐみ。
ここから、よきものが伸びてゆく。
いくつもの芽が育ち、やがては大きな森をつくっていこう。

Where good things grow.
わたしたちは、この地の芽吹きのために、
未来に希望の森を見るために、
厳しくも優しい風になろう。
慈しみの雨になろう。
そして、なによりも熱い太陽になろう。

Where good things grow.
きっと、芽吹く。
前橋の大地の下にはたくさんの種が、そのときを待っている。

めぶく。

前橋市
MAEBRASHI CITY

民間共創

～民間の想いと行政だけではできなかったことを実現する
「都市魅力アップ共創（民間協働）推進事業」～

サッポロ一番みそラーメン「前橋二番」の製作



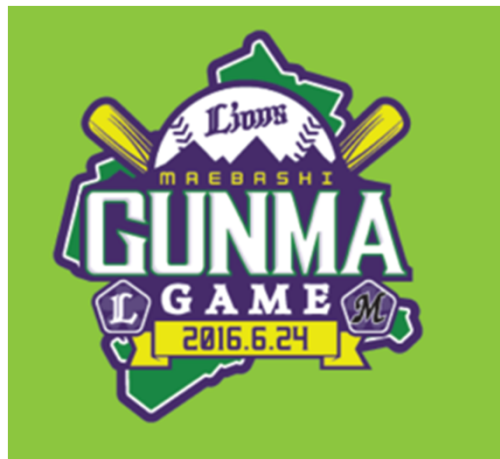
るなばあく施設の塗装（塗り替え）



保育所での太陽光発電

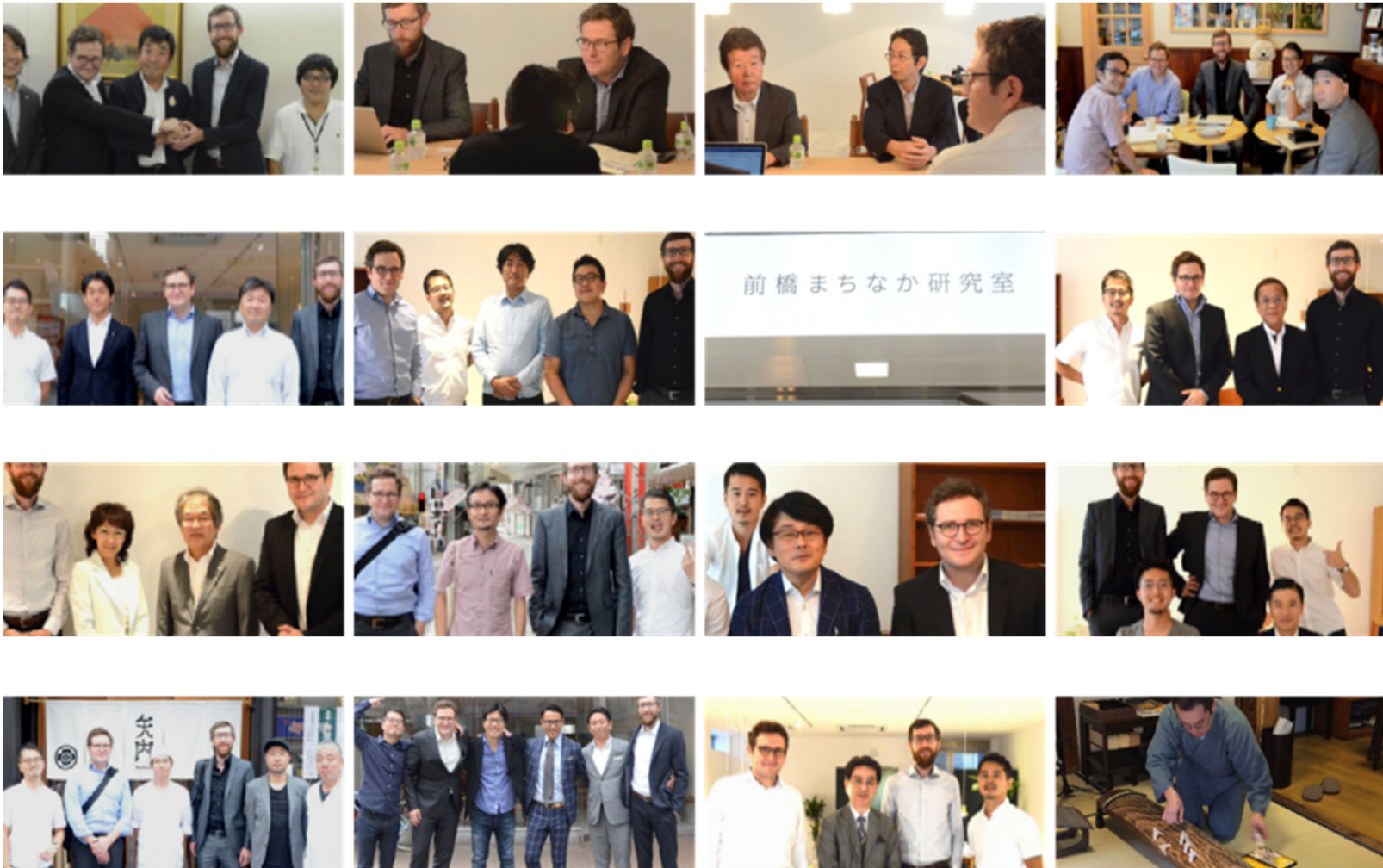


「みんなの輝く☆を見つけよう！プロジェクト」



MAEBASHI MICHINOEKI PROJECT

前橋のDNA (ステイクホルダーへのインタビュー)

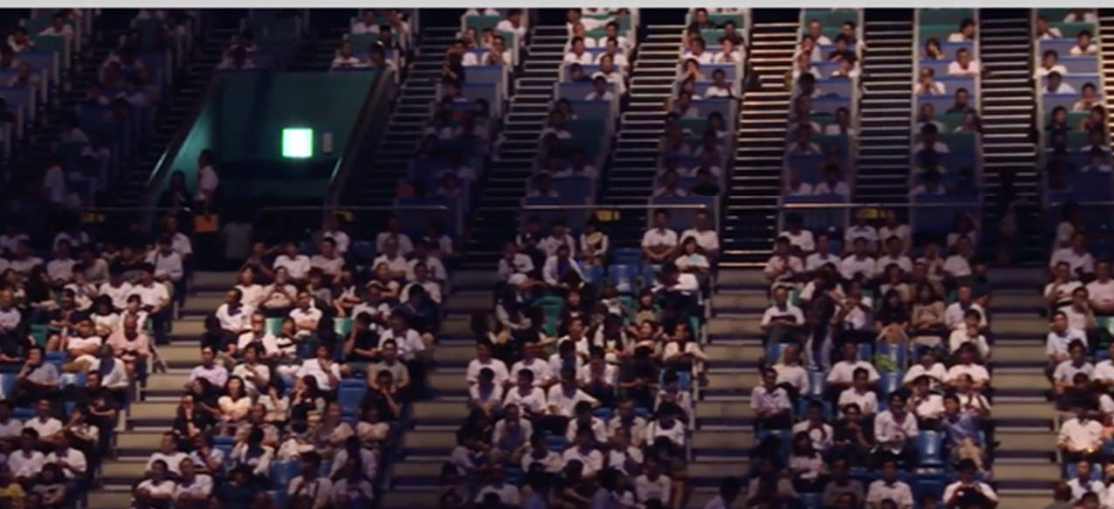


前橋ビジョン発表会 2016.8.3





2016年、市民と共に創った前橋ビジョン、「めぶく。」
ここから、全て始まった。





● 岡本太郎
太陽の鐘
■ 太陽の会





“食”の魅力開発



シンボル 太陽の鐘 設置

MAEBASHI TIMES

vol.0
(めぶく号)



いま、
前橋が
おもしろい。

タブロイド紙他、コミュニケーション設計



白井屋ホテル再開発



News Picksトークイベント

官民共創のまちづくり



民間主導による前橋ビジョンの制定
(2016年)

「風の会」の発足
(2016年)

2019年：「前橋デザインコミッション」設立



「太陽の鐘」の設置
(2018年)

前橋イベント開催
(2019年)

2019年：「アーバンデザイン」作成

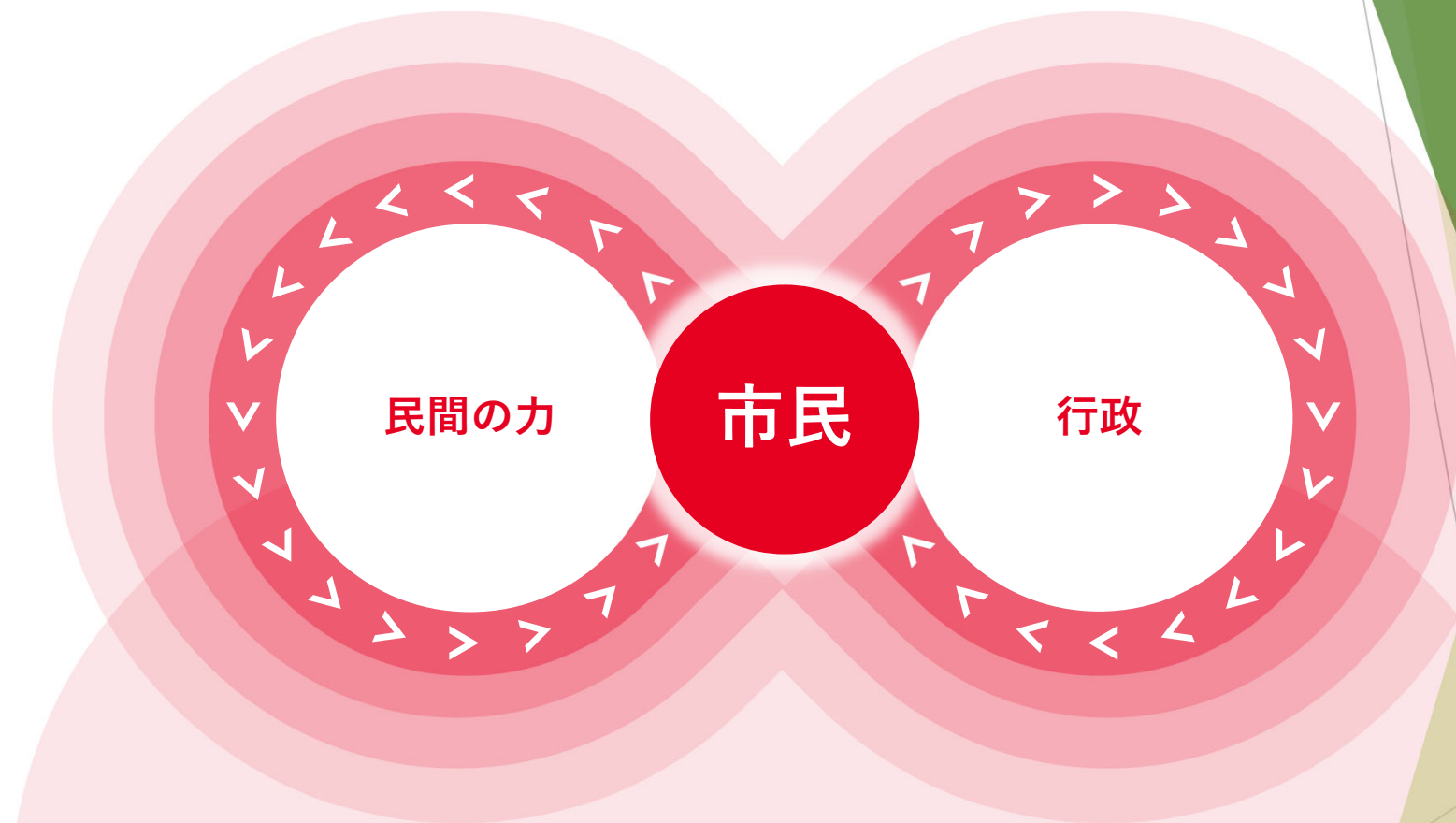


「前橋まちなかまちづくりファンド」設立
(2021年)

白井屋ホテルの開業
(2020年)

2020年：「先進的まちづくり大賞」受賞





**行政のみが主導するのではなく、民間の力を大きなエンジンとして
前橋の街のバリューを高めている取組が始まっている**

クリエイティブ・クラスの人たちが集い、
新しい価値が生まる街になる

住んでいる人／子供の
デザイン・アートに対する感性が育つ

地元の食材と味の可能性が拡張する

都市で最先端の仕事しながら、
自然を感じられる人間らしい生活

ただ街を歩くだけでも心地よさを感じ、
精神的な健康が促進される街

緑、広場が防疫の役割も果たす
Well-beingな街

高齢者も子供も、
圧倒的に便利でくらしやすい生活

日本のデジタル産業の可能性を
試せて、拡張できる街

デジタルの才能が集い、出会う街

いくつになっても、学びなおし、
起業にチャレンジできる街

最先端のデジタル教育を
子供も女性も高齢者も受けられる

「本当にいいもの」「一流の人」
に触れて感性が育つ街

Value

デザイン都市

IT（イト）の町（最新技術の実証実験特区）

めぶく

Well-being/Well-design

Green & Relax

人が育つ町

前橋市の取組 (デジタル基盤整備)

① デジタル市民権

いつでもどこでもまちづくりに参加できる
(自分の意思を反映できる)

未来型の民主主義を実現するための

新しいコミュニケーションプラットフォーム

～多くの市民が集い意見を交わすことが難しい物理的な制約からの解放～

前橋市が目指す「デジタル市民自治」の姿

デジタル市民自治により、全ての市民が自分ごととしてまちづくりに参画できる環境を醸成していくことが
市民同士のコミュニケーション・共助を促し、まちのWell-beingにつながっていく



共助によるまちづくりへの参画そのものが市民のWell-beingにつながっていく

市民のまちづくりへの意向を実感できるような仕組みと、それを行動に移せる機会を最大化し
市民同士のコミュニケーションを促進

まちづくりへの参画意向の見える化による
誰一人取り残さない意識の醸成



デジタルの力により、いつでもどこでも社会とつながり、市民自身のまちづくりの意思が伝えられる環境がもたらされ、その反映がわかる



めぶくIDに紐づいた属性・データを活用したアンケートなどにより、市民の意向を把握し、より市民にとって有効なまちづくりにつなげる

めぶくIDを通じた
オプトイン



“暮らしテック”による
相互のニーズをつなぐ多様な機会の提供

“暮らしテック”では助けを求める人と、助けたい人をデジタルの力でマッチングさせ、市民による共助を促していくことを目指す



個々の暮らしに最適化された情報の取得、サービスを楽しむことにより、地域課題や社会問題に対して能動的に動く機会を与える

まちづくりを自分事として実感する
機会の提供

デジタルによるマッチングで
市民同士の共助機会を提供

デジタル市民自治

- デジタル市民権を通じて全ての市民が自分ごととして参加するまち -

(1)先端的サービスの説明（アプローチ別）：人がつながる

選挙における若者の投票率が全国的に低い水準にとどまっている中、前橋市も例外ではなく、未来志向型の長期的な目線でのまちづくりに課題があるといえる

市民コミュニケーションプラットフォームは、市民一人ひとりが自ら未来を切り拓くことをアプローチとし、社会とのつながりの中で、いつでも、どこでも、自分が自分であることが保証された中でまちづくりに対して意見し、より良い暮らしの実現につなげるサービスである

アプローチ



- いつでも、どこでも社会とつながり、必要な情報を得られ、自分の意思を伝えられる環境にある

①常に社会とつながり、



②身近な課題に気づき、

- 社会とのつながりの中で、身近な地域課題や関心のある社会問題を積極的に発見することができる



③自ら未来を切り拓く。

- 一人ひとりが自ら考え、能動的に意見を伝えて社会に影響を与え、自分の力で未来を切り拓くことができる

実現

市民コミュニケーションプラットフォーム

スマートフォン等の情報機器を通じ、いつでもどこにいても関心ある分野について情報を得て、自分が自分であることが保証された中で責任を持って意見を伝え、より良い生活、より良いまちづくりにつなげられる



市民の意向把握の高度化

- 従来型の意向把握手法をスマートフォン等を通じて実現（市民アンケート、パブリックコメント、市民提案等）



オンライン住民投票

- 重要な政策決定において、可否や選択肢を示された上でスマートフォン等を通じて意思表示



オンライン選挙

- 市議会議員や市長を選ぶ際に、スマートフォン等を通じて投票



個々人の暮らしに最適化された情報を得ることができ、いつでも課題を見つけ、意見を伝えることができる。

プラットフォームを実現するシステム基盤



プラットフォームアプリケーション

安全・安心な本人認証「めぶくID」

マイナンバーカード・スマホ・顔認証の組み合わせによる革新的なデジタルID。



市民の想いを“護る”強固なセキュリティ

投票データを暗号状態で集計する

高速MPC

投票データの真正性を保証する

高速ブロックチェーン

投票データを暗号化して分散保管

AONTストレージ

データ解析に基づくまちづくりの進化

集計結果を基に、属性や行動データ、会話データ等からプライバシーに配慮して統計解析。



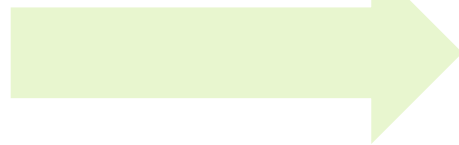
確かなデータに基づく、市民にとって本当に有効なまちづくりへと役立てることが可能。

②めぶくIDとは？

マイナンバーカードによる本人確認を実施した上で
スマートフォン上に電子署名法の認定証明書を発行して
めぶくIDのコアとして使用する仕組み



マイナンバーカード
の署名用電子証明書
により本人確認

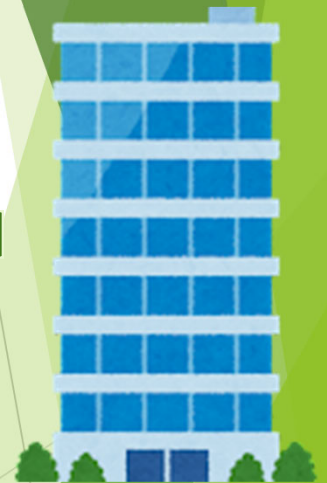


iPhone及び
Android
スマートフォン

電子証明書を発行



電子署名法の
認定認証局



Q : なぜ、新たなデジタルIDが求められているか？

A : 暮らし全般をDXするための「統合ID」が必要だから。

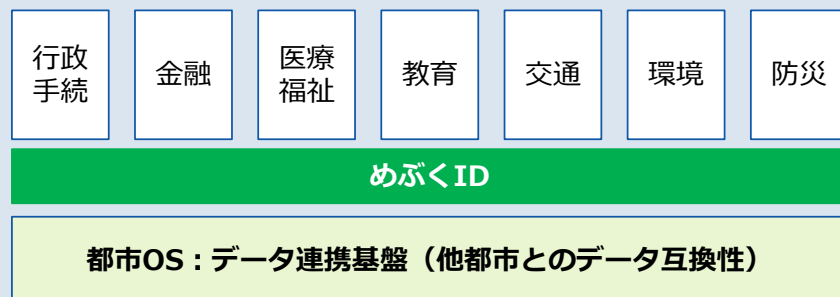
統合IDの要件

① 幅広い適用範囲

- ゆりかごから墓場まで全体をDXすることが求められている
- そのためには、自治体サービス、準公共サービス、民間サービスを全てカバーする必要がある
- マイナンバーカードは行政手続き等のデジタルガバメント向けに限定されているため、民間サービスでの利用には不適（限定列挙された使い方のみで利用可能なため）

② セキュリティ要件の充足

- 2021年9月29日施行の総務省令の改正
オンラインの行政手続きにおける本人確認は、
「マイナンバーカードの電子証明書を使う」 OR 「電子署名法の認定電子証明書を使う」の2択
（例えば、LINE IDで住民票の写しの申請を行うことは禁止された）



幅広い用途で使え、かつ他都市とのデータ連携を可能とするIDとしてめぶくIDを活用する。

電子署名法の認定認証事業者

	会社名	認証業務の名称	認定日
1	株式会社日本電子公証機構	株式会社日本電子公証機構認証サービスiPROVE	2001年12月14日
2	セコムトラストシステムズ株式会社	セコムパスポート for G-ID	2002年 7月 4日
3	株式会社トインクス	TOiNX電子入札対応認証サービス	2002年12月10日
4	株式会社帝国データバンク	TDB電子認証サービスTypeA	2003年 2月 5日
5	NTTビジネスソリューションズ株式会社	e-Probatio PS2 サービス	2005年11月 9日
6	三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社	DIACERTサービス	2014年2月6日
7	日本電子認証株式会社	AOSignサービスG2	2014年7月31日
8	三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社	DIACERT-PLUSサービス	2015年1月21日
9	NTTビジネスソリューションズ株式会社	e-Probatio PSA サービス	2016年11月1日
10	my FinTech株式会社	my電子証明書	2021年11月10日

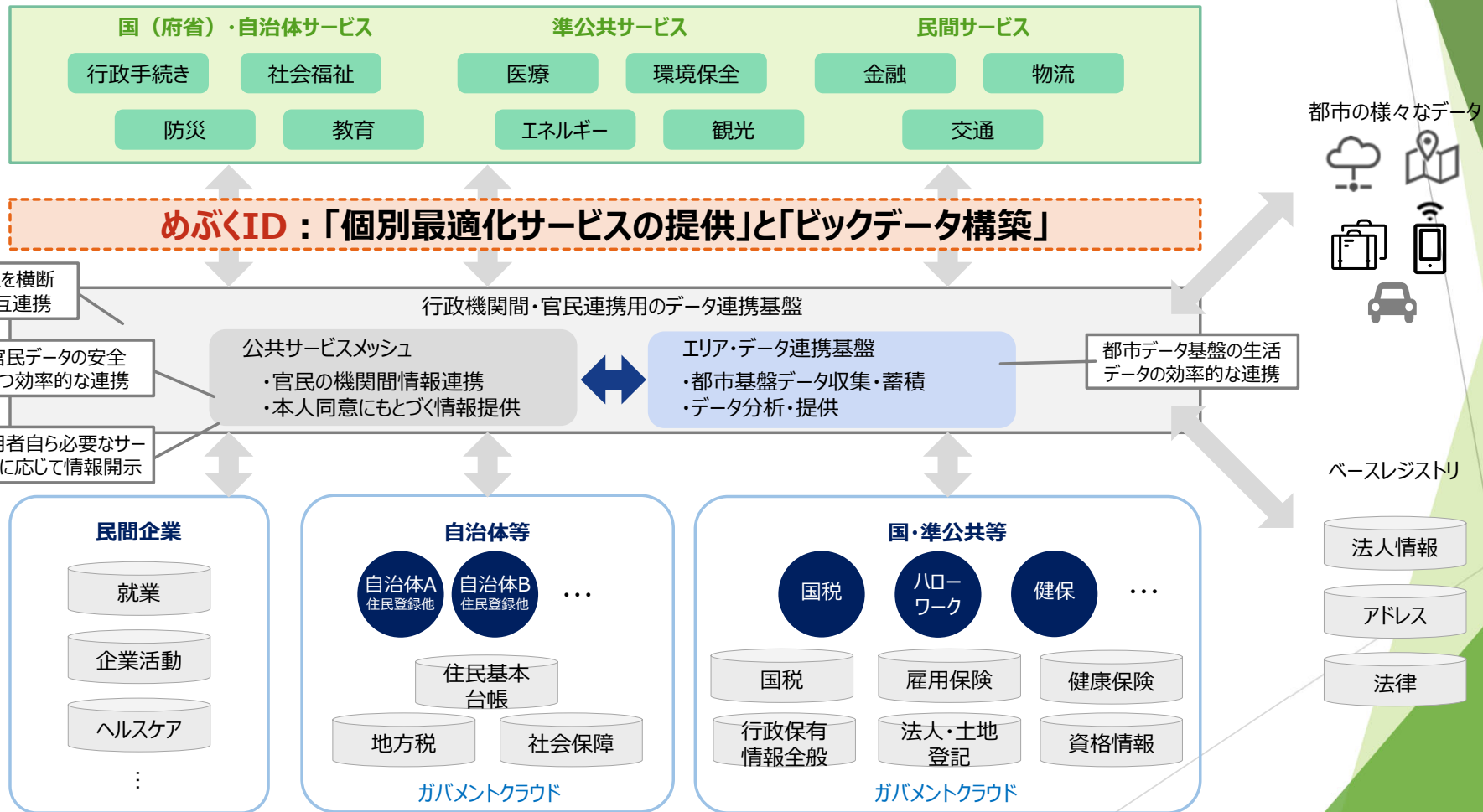
ICカードやファイル形式で電子証明書を提供

スマホベースで初

「デジタル田園都市を支えるデジタル基盤としての“めぶくID”」

目的

デジタル基盤の整備によって、全てのサービスにおいて、必要に応じ、国、自治体、民間企業、教育・医療などの準公共分野のサービスを担う機関、ベースレジストリ、インターネット上にあるオープンな情報などにアクセスでき、データの利活用が行える環境を整備する



※デジタル田園都市国家構想実現会議（第2回）牧島大臣提出資料をもとに作成

めぶく I Dのポイント

- 利便性のある**スマホに搭載できて法的根拠のある**
“現在”唯一のID
- 官民で**幅広いサービスに対応できる**
- ビックデータを集めるだけでなく
安全安心に個別最適化のサービスを行う
- 利用者のオプトイン（個人の許諾取引）を
電子署名として残せるエビデンス
- 市民ひとりひとりが**必要な時に必要な情報・サービスを**
安全に利用するためのID

③ めぶくグラウンド株式会社

**共助型未来都市の実現のため、
これまでの先進的な官民共創をベースにした
長期的・継続的に責任をもって進める担い手であり
多くの企業、組織に資本参画を募る、
めぶくIDの発行主体であり、公益・準公共・民間サービスも行う**

- * 民主導のガバナンスと**消費者主導のデータ連携（データガバナンス）**
- * めぶくグラウンド株式会社にデータガバナンス委員会を設置
- * 成果連動型等の新しいファイナンスによる「まちづくりイノベーション推進会社」であり地域還元を行う
- * 長期的・継続的なまちづくりの担い手

参考 「安全安心」

個人のプライバシーを守る

セキュリティを最優先に

市民合意のもと必要な時に必要な情報を

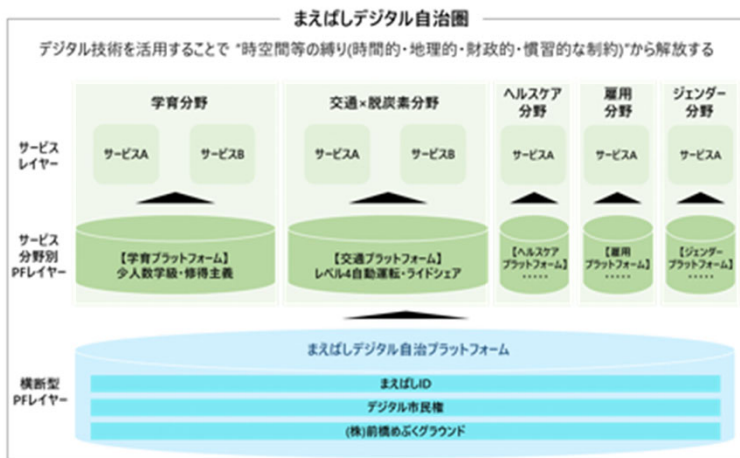
安全に利用 <オプトイン>

<法的根拠> <分散型データ>

<リスク管理（保険）> <最新技術>



セキュリティ・プライバシーの重要性



まえばしデジタル自治圏は、**市民を主語としたデータの流通圏**であり、大量の個人情報/個人に紐づくデータの流通が行われるセキュリティ・プライバシーに関する懸念があれば、データの流通やスムーズな利活用は到底不可能

高度・堅牢なセキュリティ・プライバシーの確保が、大胆な規制改革の大前提である

前橋市ならではの確保アプローチ

- 1

法的裏付けのある電子署名の使用

電子署名法および公的個人認証法による推定効等が適用されるため、サービス提供者や利用者が不当な法的リスクにさらされることはない

- 2

分散型データ連携

特定のシステム等にデータを集中させるのではなく、各所のデータが分散した状態のまま必要に応じて連携させる技術を用いることで、潜在的なリスクを軽減

- 3

個人情報データ漏洩やプライバシー侵害による潜在的な損害賠償額に対する保険

下記の要因で保険会社が保険リスクを合理的に抑え付保することが可能

 1. めぶくIDによるなりすまし防止
 2. 民間資本の入ったまちづくり会社が合理的かつ透明性をもって個人情報を管理

詳細後述

- 4

先端知見を有するアドバイザーを登用し、スマートシティのセキュリティ・プライバシーに関するベストプラクティスを全国に先駆けて実装

1. プライバシーインパクト評価
 2. 秘密計算・秘密分散
 3. クロスドメイン認可
 4. まえばしmobile(通信網)

詳細後述



前橋ならではの強み

個人情報データ漏洩やプライバシー侵害による潜在的な損害賠償額は巨額であり、合理的に保険リスクが抑えられていない限り民間保険会社による付保は不可能である。**保険が存在しない場合、データ提供者・データ管理者双方にとって安定的な運営とスムーズなデータ流通が不可能**である。



この点、前橋スーパーシティ構想においては、下記の要因により合理的なリスク制御が可能であり、**付保が可能**である

1. めぶくIDの活用により、不正ななりすましによる情報漏洩のリスクが十分に軽減できる
2. 自律的な経営規律をもった民間出資のまちづくり会社がデータ管理を担うため、最先端の技術を駆使して堅牢な管理とリスク低減を行う合理的なインセンティブがある
3. 民間出資のまちづくり会社を適切なガバナンスのもと運営を行うため、管理の透明性を担保できる

このような保険の引き受けを当市の登録事業者たる
大手損害保険会社が積極的に検討している

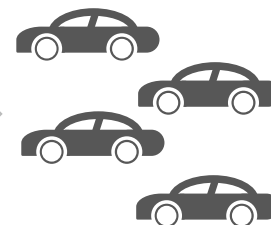
社会の変革期における保険の重要性

自動車社会の黎明期

自動車は非常に危ないというリスク懸念が普及の妨げ

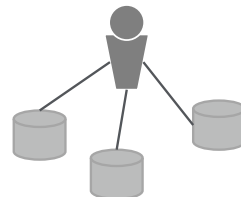


自動車保険の登場により、一気に普及拡大

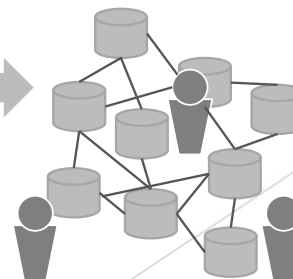


デジタル社会の黎明期

個人データの流通や利活用は非常に危ないというリスク懸念が流通の妨げ



新たな保険の登場により、本格的なデジタル社会が実現



④ 「デジタル&ファイナンス活用による 未来型政策協議会」 <自治体横展開>

デジタル等の最先端技術と民間資本を活用した新しいファイナンスにより、街のDXを促し、地域課題を共同解決する政策を検討・実装する

- 10月1日呼びかけ、2月1日総会実施
- 自治体連携：31自治体参画
- 団体連携：日本PFI・PPP協会、C4IRJ（世界経済フォーラム第4時産業革命日本センター）SCIJ（スマートシティインスティテュート）

デジタル&ファイナンス活用による未来型政策協議会（目的）

スマートシティを志向する都市間の緊密な連携のもとに、デジタル等の最先端技術と民間資本を活用した新しいファイナンスによる多様な手法の導入により、都市の変革（DX）を促し、地域課題を共同解決する政策を検討・実施して新たな価値を創造する。

これまで

各地域（例：前橋市）
【ビジョン・将来都市像】
新しい価値の創造都市

都市の暮らしやすさ

寛容性

多様性

【各政策の推進】

- ・基本事業（医療福祉、教育、財政改革等）
- ・ソーシャルアクション
- ・シティプロモーション
- ・民間共創
- ・未来型政策・・・等

現在



これから

デジタル

+

新しい
ファイナンス
スキーム

+

自治体の
真の地域連携

➔

デジタル&ファイナンス活用 未来型政策連携 協議会

国による「スマートシティ」「スーパーシティ」「DX」の推進

協議会組織図

デジタル&ファイナンス活用による未来型政策協議会

【加盟市区町村】

群馬県前橋市	発起人
北海道江別市	発起人
長崎県大村市	発起人
北海道小樽市	群馬県伊勢崎市
東京都目黒区	長野県上田市
愛知県岡崎市	大阪府吹田市
鳥取県米子市	広島県呉市
山口県下関市	宮崎県都城市
等...	

(2月17日現在25市が参画)

《幹事会》

前橋市
 ●●市企画調整課長
 ●●町企画財政課長
 ●●村総務課長 ……

《事務局：日本PFI・PPP協会内》

前橋市未来政策課

◆協議会運営協力 (特非) 日本PFI・PPP協会

◆政策アドバイザー
 専門アドバイザー
 (民間企業・研究機関等)

◆連携団体
 ・スマートシティ・インスティテュート (SCIJ)
 ・世界経済フォーラム第4次産業革命日本センター (C4IRJ) ほか

<協議会の目的>【第2条】

スマートシティを志向する都市間の緊密な連携のもとに、デジタル等の最先端技術と民間資本を活用した新しいファイナンス手法を導入することにより、都市の変革（DX）を促すとともに、地域課題を共同解決する政策を検討・実施し、それぞれの地域で新たな価値を創造することを目的とする

<協議会の事業>【第3条】

協議会は次の事業を行う

- (1) 会員相互の情報共有や情報交換
- (2) 地域課題等の調査・研究
- (3) デジタル技術を活用した未来型政策に関する研究
- (4) 民間資本を活用した事業成果連動型の新しいファイナンス手法に関する研究
- (5) 地域課題等の解決のための事業の企画や共同事業等の実施
- (6) 協議会活動に関する広報、情報発信
- (7) その他、協議会の目的に資する事業

前橋市 デジタルグリーンシティ (共助型未来都市)

スマートシティスーパーシティ構想
デジタル田園都市国家構想対応

テーマ 先端的サービス（各サービスのプラットフォームを含む） まえばしデジタル自治プラットフォーム・インフラ

前橋めぶくグラウンド構想
 スーパーシティ×スローシティが実現する、多様な人が、
 つながりながら、一生涯、育ち、新たな価値がめぶく街
 「技術が人に寄り添う」、「先端的」で「パーソナライズ」されたサービス
 ビジョンを実現するために必要な、「誰一人取り残さない」、



まえばしID
 行為自体が不要な社会生活を実現するための真の未来型ID
 「相手が何者かを確かめる」「自分が何者かを証明する」という

デジタル市民権
 真の未来型の民主主義を実現する仕組み
 いつでもどこでもまちづくりに参加できるという

グラウンド
 真の未来型のまちづくりイノベーション推進会社
 Society 5.0を実現するための

めぶきを生み出す

仕組み
 デジタルデバイド対策：
 市民のデジタルデバイド対策を実施誰もが安心して先端的サービスを活用できるように

官民一体で中長期的な投資を可能にする新しいファイナンススキーム

めぶきを生み出す

基盤
 デジタルインフラ：
 「データ連携基盤」と「まえばしmobile(通信網)」

セキュリティ：
 個人情報に適切に配慮したプライバシー対策の実施

取組実績：
 本申請に先立ち既に実施しているスマートシティ関連の豊富な取組実績

めぶきを生み出す

人
 市内の各種団体の関与：
 産業界等や医師会等の市内の各種団体の積極的な関与

民間による自発的な活動：
 (太陽の会 / GIA・GIS・GPA / MDC / MMA)

スーパーシティへの取組意欲：
 スーパーシティ準備検討会 / 159社の事業者公募

「誰一人取り残さない」ための「先端的」で「パーソナライズ」されたまちづくりに必要な「広範かつ大胆な規制改革」
 (「少人数学級・修得主義」、「レベル4自動運転・ライドシェア」、「マイナンバーカードの未来形の先行実現」など)

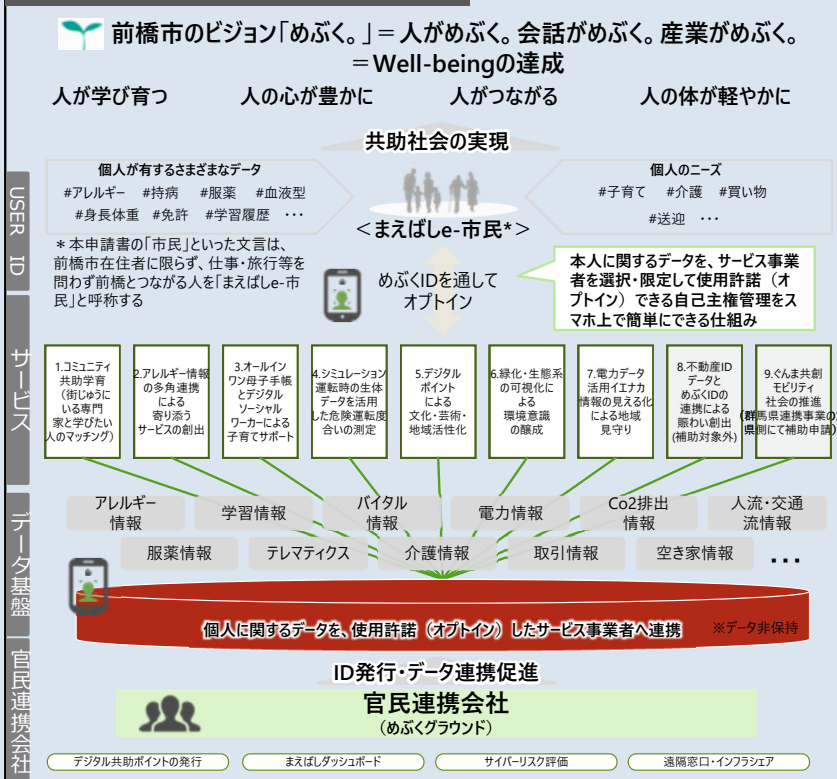
【凡例】 ■ 実現したい姿 ■ サービスの概要



デジタル田園都市国家構想推進交付金（TYPE 3） 事業概要（1/5）【まえばし暮らしテック推進事業】

実施地域	群馬県前橋市
実施主体	群馬県前橋市
事業概要	市民によって育まれる共助型未来都市を目指し、一人ひとりがWell-beingでいられる街を実現するため、地方中核都市が抱える「あらゆる分野の課題が存在し、単一分野の領域の高度化では充分ではない」点を考慮し、前橋市では暮らしのあらゆる局面において、データ連携と最先端の技術によりデジタルで社会課題を解決【テック】する「暮らしテック推進」を行い、地方中核都市の先駆けとなるモデルを実装する。今年度の中でも、教育、子育て、健康情報活用、交通、文化・芸術・自然環境に対する行動変容促進等の領域に注力する。本人の同意に基づき、自身に関するデータ（分散して存在）をサービス提供者に使用許諾（オプトイン）することで、サービス提供者が個別最適化（パーソナライズ）したサービスをレコメンド・提供できるようにすることで、一人一人の暮らしがバージョンアップする。サービスだけでなく「ID」「データ連携基盤」を提供する「官民連携会社」も実装する。これらの整備・実装が、地域のリソースやデータをシェアし、共助の精神に基づいた市民中心のまちづくりを加速させる。

取組内容



背景課題

市民によって育まれる共助型未来都市、一人ひとりがWell-Beingでいられる街をめざして、リアル/デジタル両面でのまちづくりを推進中。その中で交通や介護等の生活のベースとなる部分の高度化や、文化芸術をより深めて身近にするような自己実現・自己超越に向けた取り組みも求められ、単一の課題に特化するのではなく、あらゆる生活やニーズへの対応が地方中核都市ならではの課題」として浮かび上がっている。地域全体で「個人情報やデータを連携」することが必要となるが、安全・安心面や利便性の課題から限定的となっている。

狙い

地方中核都市の抱える課題やジレンマへの対応として、
①単一の課題に閉じず生活のあらゆる局面の課題に対応できる環境を整備・実装
②個人の意思によってデータ連携が地域でスムーズに執り行われる環境を整備・実装を行い全国の地方中核都市のモデルとなるような先駆的取り組みを実装し展開する

実施事項

生活のあらゆる局面を支える「まえばし暮らしテック推進事業」の実施

1.コミュニティ共助学習	多様な学びを求めている人と、自身の経験を社会に還元したい人をつなげ様々な学びの場を創出し、地域での学びを教育機関にも連携するサービス提供	2.アレルギー情報寄り添うサービス創出	アレルギー等の情報を消防や学校に連携しておくことで有事の際に緊急搬送等の隊員が事前に準備することができ安心な暮らしを支えるサービスの提供
3.子育てサポート	デジタル母子健康手帳で管理する乳幼児の健診データと、ソーシャルワーカーの相談履歴等を掛け合わせて、効果的なアクションをPushするサービスの提供	4.データを活用した危険運転度合いの測定	テレマティクスと運転シミュレーションデータを掛け合わせ自身の運転技能の判定や危険道路を可視化することで事故を未然に防ぐサービスの提供
5.デジタルポイントでの活性化	地域で育むべき文化・芸術に対してデジタル共助ポイントで価値を与えることで、持続的な地域活性化を後押しするサービスを提供	6.緑化・生態系可視化	行政や企業の取り組みがどの程度街の緑化に効果を与えたかを地図や建物、Co2情報を掛け合わせることで実現して行動変容を促すサービス提供
7.電力データイナカ見える化	家庭の電力消費データとケアマネ情報を掛け合わせ地域での見守りや声掛けを効果的にし、フレイル抑制やコミュニティ形成を行うサービス提供	8.不動産データ利活用 (補助対象外)	不動産等のアセットデータと個人情報を掛け合わせることで地域の空き家や公共空間を活用した賑わい活性化を促すサービスの提供
9.くま共創モビリティ	免許返納を行った人でも地域内を不便なく移動できるように人流・交通流・空き車両・ドライバーをかねあわせてセミオンデマンドの移動サービスを提供 (*群馬県連携事業のため県側に補助申請)		

地域でのデータ連携を可能とする基盤サービス

10.デジタル共助ポイントの実装	12.対面遠隔デジタル窓口	11.パーソナライズ化されたスマホ版まえばしタッチボード	13.データ連携基盤	14.めぶくID	15-17.その他PMO,リスク評価など
------------------	---------------	------------------------------	------------	----------	----------------------

事業概要（2/5）【まえばし暮らしテック推進事業】

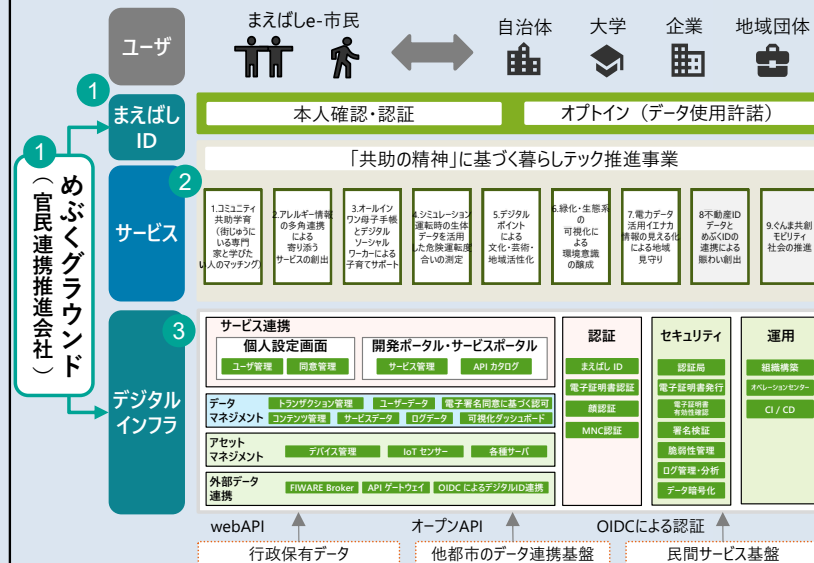
実施体制図



- 本事業は、これまで前橋市が積み上げてきた考えやビジョンに即して推進するため市政への理解や土地勘があり、各分野の専門家であるアーキテクトを配置。アーキテクトはまちづくりの企画立案・実行に主体的にコミットしている。2019年10月から2022年4月末までスマートシティの協議は740回を超えトータル1480時間、アーキテクトとの会議は160回を超え、320時間に及んでいる。
- さらに、今後持続的に地域の事業を推進し、デジタルグリーンシティを実現するために官民連携会社を設立しスピード感とガバナンスを両立して推進していく他、産官学で役割を決め推進する。特に民間事業者はIDを活用したサービスアイデアを募っており、今年度に限らずサービスを断続的に創出する体制を組む。

*2022年10月ごろ正式設立に向け関係者調整中

システム構成図



システム構成上のポイント（前橋の強み）

- 1 本市では、**セキュアな統合IDである「めぶくID」**を構築。デジタル上での安心安全性を担保し、自分ごととしてまちづくりに参画できる環境醸成が、コミュニケーション・共助を促していくという「**デジタル市民自治**」の実現を目指していく。また、めぶくIDを通して取得した**データに基づく政策評価や街の資金循環を促し、まちづくりを推進する官民連携会社「めぶくグラウンド」**を設立する。
- 2 前橋が掲げる一人ひとりのWell-beingを実現するために、人を基軸としたサービスの提供を目指す。従来の分野に閉じる縦割りの考えではなく、**人を基軸として分野横断的にサービスを検討することで、デジタル田園都市国家構想の重視する複数データの連携による付加価値の高いサービスの創出を目指す。**
- 3 本市のデータ連携基盤が最も重視している設計思想が、「**自己主権に基づくデータ管理**」である。情報を吸い上げるのではなく、利用者が自分の意志でデータを提供する相手方を選択できて初めて、円滑なデータ提供と利用が可能となる。自己主権で決定されたデータ提供だからこそ、**本人同意に基づくデータ分析・個別最適化されたサービスのレコメンド・提供が可能となる。**

事業概要（3/5）【まえばし暮らしテック推進事業】

前橋市が目指す姿

市民参画による官民共創のリアルなまちづくりが始まったのは10年前。デジタルの力を活用し市民の時間と心の余裕を生み出すスローなまちづくりに着目し、2016年、「めぶく。」というまちづくりビジョンを掲げた。

2022年、デジタルのさらなる発展やWell-beingの概念がプラスされ「めぶくまちづくり」は加速する。

私たちは、「めぶく。」のもとに生み出す未来都市を「デジタルグリーンシティ」と呼ぶ。

「デジタル田園都市」が行政の取組を指すならば、「デジタルグリーンシティ」は、共鳴する市民にとっての、市民によって育まれる共助型未来都市を指す。

市民一人ひとりが、自分の意思でまちづくりに参画（オプトイン）する。

前橋に暮らし全ての人が、デジタルの恩恵を受け、一人ひとりがWell-beingでいられるまちを自分たち自身で創っていく。

自分自身の存在を肯定し、地域の一員としての在り方を感じるとき、ひとは心からの幸福を実感する。

自己を他者のために活かすこと。互いに助け合うこと。多様性を享受すること。

それらを通じ、つながりと感謝を生みだし、自己を超越したところに幸せを求めることができるようになっていく。





デジタルグリーンシティ前橋は、リアルとデジタルが融合することで、技術が人に寄り添い、誰一人取り残されることなく、新たな価値を芽吹かせ続けるまちである。

市民はその営みに自らの意思で参画し、体を軽やかにし、心を豊かにし、学び育ちながら互いにつながることで、多様なWell-beingを享受する。

「暮らしテック」により実現される、人を中心とした前橋ならではのイノベーション未来都市。

デジタルグリーンシティを目指す前橋の想いが、あらたな「めぶく。」を生み出し続けていく。

前橋市の強み・これまでの歩み

-  市民の豊かな暮らしを目指す先進的なまちづくりを10年以上進めている
-  市民の巻き込み、産官学、さまざまなステークホルダーとともに対話を積み重ねてきた
-  スーパーシティ構想の提案はじめ、国交省、内閣府等さまざまな省庁事業にチャレンジしてきた
-  めぶくID、官民連携会社「めぶくグラウンド」設立など具体的に着手している

本事業の取組概要



将来の絵姿



事業概要 (4/5) 【まえばし暮らしテック推進事業】

まえばし暮らしテック推進事業のデータ連携が生み出す価値の例示 (本年度申請事業を用いた説明)

パーソナライズ化された様々な情報の提供: まえばしダッシュボード

例えば、個人が保有する母子健康手帳の情報やアレルギー情報を、他のデータやサービスに連携することでまえばしe-市民へ個別最適化されたサービスを提供

自分が見たい情報やデータ連携する内容に合わせて個別最適化されたサービス・情報をスマホに表示 (まえばしダッシュボード)



データ連携基盤で個人に関する情報連携やサービス間の連携を実現

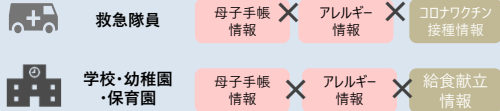
本申請にて実現されるユースケースとまえばしe-市民が享受する価値

【本申請で提案している取組】

2.アレルギー情報の多角連携による寄り添うサービスの創出

これまで

救急隊員は患者のアレルギーや服薬情報までは把握できない。給食にアレルギー食材が出るかは親・本人・教師・保育士がアナログに確認



- ✓ 緊急時にアレルギー・既往歴等の命に係わる重要・致命的な情報を確実に伝えることで自分の命を守ることができる
- ✓ 献立とアレルギー情報を自動突合して自分に危険な食材が出る日を自動判別することで、事故を防げ、アレルギー等に対応した個別最適な給食を食べることができる

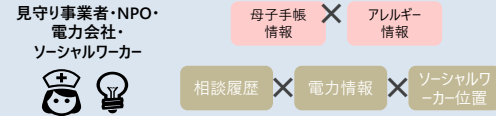
個別の事情に配慮した
安心な地域基盤の提供や安全な食事の提供

【本申請で提案している取組】

3.オールインワン母子手帳とデジタルソーシャルワーカーによる子育てサポート 7.電力データ活用イェナカ情報の見える化による地域見守り

これまで

子育てに悩んだ場合は自ら情報を取ったり声を上げないと適切な情報はつかめずネグレクトや産後うつなどが起きてしまう



- ✓ 健診やワクチン情報が、アレルギー等致命的な内容も加味して、最適なタイミングで届くため対応忘れが防止できる
- ✓ なかなか周囲に助けの声を上げにくい人でも、電力情報により長く外出していないなどをアラートにソーシャルワーカーが駆けつけ、子育てセーフティネットの安心感を受けることができる

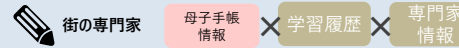
個別の事情に配慮した
地域での見守り・ケアや充実した子育て環境の提供

【本申請で提案している取組】

2.コミュニティ共助学習 (街じゅうにいる専門家と学びたい人のマッチング)

これまで

まちづくりなど専門性の高い人物が地域にいても教えてもらえる機会がない
自分がある領域の専門家でも子育て等に奔走されスキルを選えない (*気分転換としても外部とのコミュニケーションが大事)

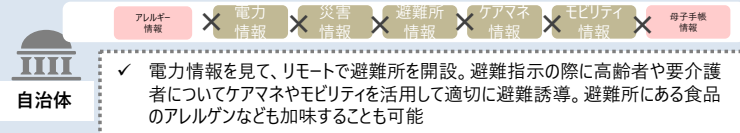


- ✓ 年齢を問わず、学びたい人が地域の専門家に容易にアクセスでき学び直しやリアルまちづくり、職業など多様な経験を積むことができる
- ✓ 専門家も自分の保有スキルを活用して地域に還元できるため新たな居場所を発見できる (#3のサービス連携で子育て中の専門家も隙間時間で社会との関わりが継続して持てる)

個別の事情に配慮した
地域での新しい学び場と地域とのつながりを提供

将来的な発展-基盤があることの効能-

データ連携によって生まれるデータを活用してさらなるサービスを創出



まえばしe-市民との接点・データ連携基盤を活用したエコシステム形成



- ✓ スキルやアイデア・技術があればニーズを持つ人へアプローチ可能、また、データを活用したサービス開発も容易
- ✓ セキュアな環境を簡単に用意できないスタートアップなどがまえばしに集まり続け事業を展開できる

事業概要 (5/5) 【まえばし暮らしテック推進事業】

分類	#	今年度取組一覧	取組内容	まえばし市民/地域への価値・効果
先端的サービス	1	コミュニティ共助学育 (街じゅうにいる専門家と学びたい人のマッチング)	✓ 多様な学びを求めている人と、自身の経験を社会に還元したい人をつなげ様々な学びの場を創出し、地域での学びを教育機関にも連携するサービス提供	✓ 市民全員が地域の専門家に容易にアクセスでき学び直しまちづくり、職業体験など 多様な経験を積む ことができる ✓ 専門家も自分の保有スキルを活用して地域に還元できるため 新たな居場所を発見 できる
	2	アレルギー情報の多角連携による寄り添うサービスの創出	✓ アレルギー等の情報を消防や学校に連携しておくことで有事の際に緊急搬送等の隊員が事前に準備することができ安心な暮らしを支えるサービスの提供	✓ 市民の個別事情に合わせ、最適な救急や給食などを受けることができるため 命に係わる致命的な事故を無くし、安心・安全な暮らし を享受できる
	3	オールインワン母子手帳とデジタルソーシャルワーカーによる子育てサポート	✓ デジタル母子健康手帳で管理する乳幼児の健診データと、ソーシャルワーカーの相談履歴等を掛け合わせて、データに基づく効果的なアクションレコメンドをPushするサービスの提供	✓ 子育てで忙しい人にそれぞれの事情に合わせた必要な情報がスマホのダッシュボードで 常に認識 できる ✓ 支援を求めることが容易となり 子育てがしやすくなる
	4	シミュレーション運転時の生体データを活用した危険運転度合いの測定 (事故防止と行動変容促進)	✓ テレマクティスデータと運転シミュレーションデータを掛け合わせ自身の運転技能の判定や危険道路を可視化することで事故を未然に防ぐサービスの提供	✓ 普段の運転やシミュレーションデータを基に自身の危険運転度合いを把握できるため、行動変容促進が適切に行われ、無謀な運転がなくなり結果として 地域の事故が減少 する
	5	デジタル共助ポイントによる文化・芸術・地域活性化	✓ 地域で育むべき文化・芸術に対してデジタル共助ポイントで価値を与えることで、持続的な地域活性化を後押しするサービス提供	✓ イベント参加だけでなく、運営の支援でもポイントが入手でき、特定の人に寄付もできるので、 共助の精神が芽生える ✓ さらにポイントを活用することで 地域商店の活性化にも寄与
	6	緑化・生態系の可視化による環境意識の醸成	✓ 行政や企業の取り組みがどの程度街の緑化に効果を与えたのかを地図や建物、Co2情報を掛け合わせることで実現して行動変容を促すサービス提供	✓ 自身の取り組みがどのように緑化や生態系へ良い影響を与えるのか把握できるため、行動変容が起き結果として 地域環境が改善 する。さらに 環境教育として生態系が学べる
	7	電力データ活用イエナカ情報の見える化による地域見守り	✓ 家庭の電力消費データとケアマネ情報を掛け合わせ地域での見守りや声掛けを効果的に行い、フレイル抑制やコミュニティ形成を行うサービス提供	✓ 電力情報を基に地域全体での見守りを実現するため、高齢者・子育て世帯など 地域のつながりを感じて快適に暮らせる ✓ 地域のつながりが コミュニティを形成しフレイル抑制にも寄与
	8	不動産IDデータとめぶくIDの連携による賑わい創出 (補助対象外)	✓ 不動産等のアセットデータと個人情報とを掛け合わせることで地域の空き屋や公共空間を活用した賑わい活性化を促すサービスの提供	✓ 地域の空き屋や公共空間を活用することで地域イベントやイノベーション創発の取り組みが盛んに行われ地域が活性化する ✓ 人が多く集まるので、多様性を感じながら新たな創造が可能
	9	ぐんま共創モビリティ社会の推進 (群馬県連携事業のため県側にて補助申請)	✓ 免許返納を行った人でも地域内を不便なく移動できるように人流・交通流・空き車両・ドライバーをかわけてセミオンデマンドの移動サービスを提供	✓ モビリティの予約と移動、目的地での買い物や観光が一本化するので来街者等の買い物体験が向上する。市民にとってはシェア・デマンドカーを利用することで不自由ない移動を享受
基盤系サービス	10	デジタル共助ポイント	✓ 市内における各種の共助活動を推奨するためのデジタル共助ポイントシステムの導入 (ポイント発行・管理・送受信等)	✓ 人を助け合うことが当たり前となることで 市民の市民の自己実現・自己超越に向けた行動が促進 される。サービス事業者もポイントを活用することで 事業連携が促進 されることで結果として 市民にとって良いサービスが受けられる
	11	パーソナライズ化されたスマホ版まえばしダッシュボード	✓ 市の概況やイベント等を利用者(市民・来街者)の状況・関心に合わせてパーソナライズ化された形で届ける市民・来街者に向けたダッシュボードの構築	✓ 個人の事情に合わせた最適なダッシュボードが提供されることで欲しい情報やサービスが適切なタイミングで受けることができ、 自分のライフスタイルで快適に暮らす ことができる
	12	対面遠隔デジタル窓口	✓ サイネージ・本人確認手法を用いた遠隔にいながらも対面と変わらないサービスの提供	✓ スマホを使わない高齢者でも、身体が不自由で遠出ができない方も1か所にいながら、様々な窓口サービスを受用できるため、 生活の利便性が向上 する

めぶく。= Well-being



Digital Green City 前橋

デジタルグリーンシティ前橋

暮らしテックが実現する共助型未来都市